

# 50 あんようじ ちゆうせいもんじよ 安養寺の中世文書



指 定 市有形文化財 昭和62年10月20日  
 所在地 安 原  
 所有者 安 養 寺



臨濟宗妙心寺末、宝林山安養寺は法燈国師の創建と伝え、後に中興開山となった正眼智鑑禅師が、堂宇を平尾山中の寺平から現位置に移した。

大井荘の地頭大井氏初代から六代まではこの寺に葬られたと伝えられており、大井氏代々の厚い庇護を受けた。大井持光が足利持氏の子永寿王丸（後の古河公方）をこの寺に匿ったことはよく知られている。

大井氏のほか、佐久郡に侵攻した甲斐武田氏、地侍平尾氏、小諸城主仙石氏などの時の有力武将からの庇護も厚く、「安養寺の中世文書」はこれら有力武将からの住職就任免許や、寺領の寄進にかかるものが主である。

「中興開山正眼智鑑禅師年譜」はいうにおよばず、武将からの寄進状などは、本寺の寺歴を知るにとどまらず、戦国期から近世初期における佐久郡の動静を知るうえでも貴重である。

- ・天正 9・5・21 武田勝頼書状
- ・同 11・7・28 依田昌秀（平尾平三）寄進状
- ・同 19・5・14 仙石秀久寄進状
- ・慶長 4・3・1 仙石盛長（秀久）寄進状
- ・同 7・3・16 千石図書正益・本所仁左衛門連署仙石秀久寄進状
- ・年不詳 3・14 越前守盛長免許状、中興開山正眼智鑑禅師年譜